

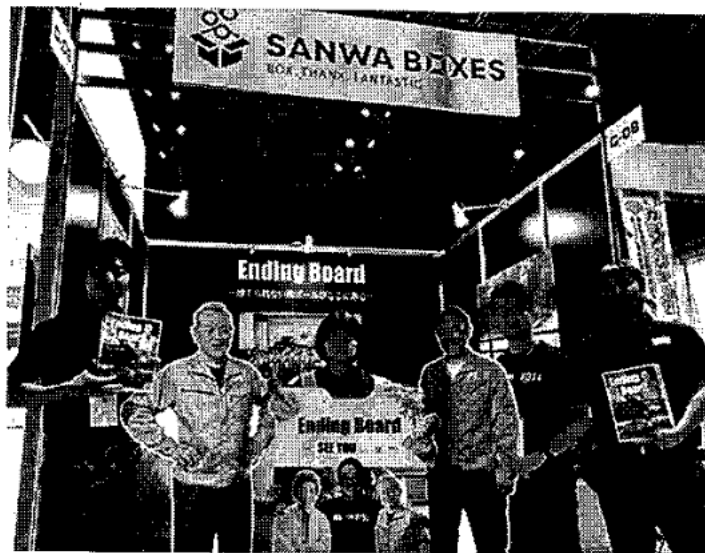
ボックスメーカー三和段ボール工業(株)(森英司社長、鳥取県倉吉市)は9月10・11日に有明GYMEX(東

三和段ボール工業

大切な人のパネル 手軽に

エンディング産業展2025 デジタル機を活用

京都)で行われた終活産業専門展「第11回エンディング産業展2025」に大切な人の段



展示ブースで前会長、社長のパネルとともに、松本常務取締役「右から2人目」、松川デジタル戦略推進室長「同左端はじめ、社員の皆さん

(松川恵也デジタル戦略推進室長)とする。

同様に今回、「葬儀やお別れの会といった、大切な人との思い出を共有する機会でも活用してもらえるのでは」(松本公彦常務取締役)と考えた。等身大パネルや懐かしの1枚の拡大など、画像からデジタル機で段ボール製パネルを作成。式の性格上、求められる短納期に小ロットで応える。

ボール製等身大パネル(ジール)を導入し、市など「SEE YOU」場開拓に注力する。シリーズを展示した。「スポーツイベントで昨年、段ボール印刷のバックボードや選手用デジタル印刷機「H anway HIGH JET2500D」製と比較しコストメリットや短納期対応など(オーシャンテクノロで引き合いがあった」